

大磯町では、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省「平成 28 年度全国学力・学習状況調査」を平成 28 年 4 月 19 日に実施しました。

本調査は、小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年の全児童生徒を対象としたもので、大磯町は小学生 263 名（後日実施 1 名含む）、中学生 224 名が参加しました。

平成 28 年 9 月 29 日に文部科学省からの調査結果公表を受け、平成 28 年度大磯町「全国学力・学習状況調査」結果分析・活用検討委員会を組織し、大磯町における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析してまいりました。このたび、調査結果の報告がまとまりましたので、次のとおりお知らせいたします。

大磯町の【特長】と（課題）

【特長①】『大磯町では、児童・生徒に対して、必要な学力を身につけさせています！』

⇒教科に関する調査の結果から、大磯町は全国及び県の平均正答率と比較して、大きな差は見られませんでした。このことから、大磯町では児童・生徒に対して必要な学力を身につけさせていると考えます。

【特長②】『外部講師を積極的に活用した、校内研修会を行っています！』

⇒大磯町では、「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」を受託し、大磯町全体のテーマ『日常授業の改善・充実』を受け、各校で研究テーマを設定し、授業改善に向けての研究を進めています。今回の調査における、学校質問紙の結果からも、学校は外部講師を積極的に活用し、外からの視点を入れながら、授業改善に取り組んでいることが明確となりました。

（課題）『学校は、一人ひとりの児童・生徒が授業の中で自分の考えを発表する機会をもてるような授業に変えていくことが必要です！』

⇒大磯町では、全校を挙げて授業改善に取り組んでいます。教員が一方的に知識を伝達するような授業ではなく、習得した知識をもとに、児童・生徒がそれをどのように活用するのかを考える授業、児童・生徒の発言が多い授業への転換を目指していますが、今回の質問紙調査の結果から、まだまだ児童・生徒は発表する機会が少ないと捉えているようです。

今後も学校研究を進めていく中で、学習者（＝児童・生徒）主体の授業づくりに努めていきます。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意して、教育施策・教育活動の改善に努めてまいります。保護者・地域の皆様には、大磯町の児童生徒の健やかな成長のため、今後も学校教育へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

1 教科に関する調査の結果から

【小学校国語】

今回出題された学習内容について、大磯町ではA・B問題ともに、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較しても、児童に対して身に付けさせるべき学力について指導していると言えます。特に、学習指導要領の領域等でみると、A問題の「書くこと」及びB問題の「話すこと・聞くこと」については、全国や県の平均正答率よりも上回る結果となりました。

その一方で、A問題の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については課題がみられました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none">書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する【A問題】目的や意図に応じて、書く事柄を整理する【A問題】目的に応じて、質問したいことを整理する【B問題】	<ul style="list-style-type: none">平仮名で表記されたものをローマ字で書く【A問題】ローマ字で表記されたものを正しく読む【A問題】

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

・仮名五十音と対応させて、ローマ字表記を使うように指導するなど、ローマ字の規則性を押さえさせ、また、身近なローマ字を集めたり名前や住所等をローマ字で表記したりするなど、生活の中で進んで読んだり書いたりするような場を、意図的・計画的に設けることが大切です。（ローマ字の指導は、学習指導要領第3学年の指導事項とされています。）

【小学校算数】

今回出題された学習内容について、大磯町ではB問題については、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。A問題についてはやや下回る結果となりました。

ただし、A問題については、（年度によって問題の質が異なるため、単なる平均正答率の比較から「学力が向上した・低下した」との評価は難しいですが）昨年度と比較すると改善傾向がみられます。

学習指導要領の領域等でみると、A・B問題の「量と測定」について、課題が残っています。また、B問題については、無回答率が全国や県と比較して高い結果となりました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none">不等号を理解している【A問題】図形の構成要素に着目して、図形を構成することができる【A問題】ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、4台目のハードルの位置を求めることができる【B問題】	<ul style="list-style-type: none">単位量当たりの大きさの求め方を理解している【A問題】単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる【B問題】

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・基準量と比較量の関係を正しく捉えるために、数直線を用いて表現する場面を設けるなど、児童が何を問われているのかイメージしやすい図示等を工夫する。
- ・設問に対して児童が発言した内容を取り上げ、「(例えば) $\bigcirc \times \triangle$ の \bigcirc は何を表しているのか。」などと問いかけることで、根拠を明確に示す必要性に気付けるような指導を工夫する。
- ・問いに対して、単に「わからない。」で済ませるのではなく、「ここまでは理解できている。」「この既習事項を使うのはわかるが・・・。」など、どの程度理解できているのかについて、児童一人ひとりに考えをもたせるような指導を工夫する。

【中学校国語】

今回出題された学習内容について、大磯町では、A・B問題ともに、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較して、生徒に対して身に付けさせるべき学力をきちんと指導していると言えます。

しかし、B問題については、無回答率が全国及び県と比較して高い結果となりました。

主な特長と課題

特長 (習得の状況が良好であると判断できるもの)	課題 (指導の改善・充実が求められるもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて資料を効果的に活用して話す【A問題】 ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く【A問題】 ・課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える【B問題】 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む【A問題】 ・文章の展開に即して内容を理解する【B問題】

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・古典などの文章を音読したり朗読したりする活動を計画的に行いながら、文語のきまりについて指導する。
- ・叙述に即して文章の内容を把握するために、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読むようにする。

【中学校数学】

今回出題された学習内容について、大磯町では、A・B問題ともに、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較して、児童・生徒に対して身に付けさせるべき学力をきちんと指導していると言えます。

しかし、学習指導要領の領域等でみると、A・B問題ともに「資料の活用」について課題がみられました。

主な特長と課題

特長 (習得の状況が良好であると判断できるもの)	課題 (指導の改善・充実が求められるもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・自然数の意味を理解している【A問題】 ・具体的な事象における一次関数の関係を式に表すことができる【A問題】 ・条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、Xの値に対応するYの値を求めることができる【B問題】 	<ul style="list-style-type: none"> ・「同様に確からしい」ことの意味や、前の試行が次の試行に影響しないことを理解している【A問題】 ・与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる【B問題】

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・トランプを使って偶数のカードをひく確率や絵札をひく確率を求める活動等を取り入れることで、「同様に確からしい」ことの意味を理解し、確率を求めることができるようにする。
- ・日常生活や社会における具体的な場面を通して相対度数の必要性和意味の理解を深めることで、不確定な事象における問題を解決できるようにする。

2 児童生徒質問紙調査の結果から

【小学校】

「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「読書は好き」と回答した割合が昨年度よりも高くなりました。

その一方で、「授業で学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う」と回答した割合が昨年度よりも低くなっています。

引き続き読書活動の充実に加え、授業においては“話す・聞く”活動を一層取り入れていく必要があると考えます。

【中学校】

「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標をもっている」と回答した生徒の割合が昨年度よりも低くなっています。道徳教育やキャリア教育を充実していく必要があると考えます。

「学校の規則を守っている」「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う」と回答した割合は昨年度よりも高くなっています。学校では引き続き生徒の規範意識を高めていくと同時に、授業の充実を図っていきたいと考えます。

3 家庭や地域の皆様にお知らせしたいこと

- ・児童生徒質問紙の質問への回答状況と各教科の調査結果を比較すると、次のような児童生徒に、平均正答率が高い傾向がみられます。(必ずしも因果関係を示したものではありません。)

【小学校】

- 朝食を毎日食べている。
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- テレビやビデオ・DVDの視聴が1日当たり1～2時間以内である。
- 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットの利用は1日あたり1時間以内である。
- 1日当たり1時間程度読書をしている。
- 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている。
- 家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- 新聞を読んでいる。
- テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。

【中学校】

- 朝食を毎日食べている。
- テレビやビデオ・DVDの視聴が1日当たり1時間以内である。(数学のB問題においては、全く見ない生徒よりも平均正答率が高い。)
- 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットの利用は1日あたり30分以内である。
- 家の手伝いをしている。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。
- テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。
- 読書は好き。

- ・児童質問紙において、「1日当たり3時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする」と回答した割合が昨年度よりも高くなりました。学校でも引き続き話題にしていますが、ご家庭においても家庭での過ごし方やテレビ視聴のルール等について、お子さんと話し合ってくださいようお願いいたします。
- ・生徒質問紙において、「1日当たり3時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする」と回答した割合が昨年度よりも高くなりました。学校でも適切な利用についての指導を行ってまいります。ご家庭においても携帯電話やスマートフォン利用のルール等についてお子様と話し合ってくださいようお願いいたします。

4 大磯町教育委員会から

町教育委員会では、本調査の分析結果を各学校に提供しました。学校では、町全体の結果をもとに、各校の詳細な結果の分析と考察を進め、成果と課題を明確にしました。今後の教育活動において、成果についてはさらなる充実と、課題については全校挙げての解決に取り組んでまいります。

今回の調査結果から、町は全国・県と同程度の学力を児童・生徒へ概ね指導できていることが明らかとなりました。その一方で、教科の領域によっては課題が見られる内容もありました。これについては、全ての教員が真摯に受け止め、改善に向けて取り組んでまいりたいと思います。

町教育委員会では、神奈川県から「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」を受託し、様々な研究・研修会を企画及び実施することを通じて、教員の資質向上と共に、「日常の授業の改善・充実」に努めてまいりましたが、今後も全校・全教員に対して必要な指導を行うとともに、学校・教員の主体的な取組に対する支援を行ってまいります。

具体的な方策としては、“今まで自分達が受けてきた授業を行う”だけではなく、“全ての教員が未来を生きる子どもたちにとって必要な力が身につく授業を実践していく”ために、現在行っている各校の研究成果をまとめた『授業スタンダード』を作成し教員間で共有する予定です。また、新しい学習指導要領の改訂に向けて、外部から講師の方を招き、最新の教育動向についても引き続き教員が学ぶ機会を設定していきます。さらには、校区の小・中学校で一緒に授業研究を実施する等の連携を図り、児童・生徒を義務教育の9年間で育てていくという視点で、教育課程の共有についても進めていきたいと考えております。

最後になりますが、町は平成27年に大磯町教育大綱を策定いたしました。その基本理念である、「いのち」「こころ」(~自らの可能性を求め、新しい時代を心豊かに生きる人づくり~)を輝かせる三つの力(「知力」「体力」「共感力」)の育成を目指していくために、教育委員会と学校

は、家庭や地域との連携を図り、協力をいただきながら、未来を生きる大磯町の子どもたちのために必要な力を育成していきたいと思います。今後も学校教育へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。